



## 2019年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月9日

上場会社名 株式会社イグニス  
 コード番号 3689 URL <https://1923.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 銭 鋺  
 (氏名) 松本 智仁  
 TEL 03-6408-6820

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年9月期第3四半期の連結業績(2018年10月1日～2019年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第3四半期	4,062	11.7	723		807		358	
2018年9月期第3四半期	3,636	11.5	951		979		1,083	

(注) 包括利益 2019年9月期第3四半期 961百万円 ( %) 2018年9月期第3四半期 1,109百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第3四半期	25.22	
2018年9月期第3四半期	80.59	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第3四半期	4,121	2,534	61.1
2018年9月期	4,654	2,272	48.5

(参考) 自己資本 2019年9月期第3四半期 2,518百万円 2018年9月期 2,255百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期		0.00		0.00	
2019年9月期		0.00			
2019年9月期(予想)				0.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	23.1	30		10		5		0.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年9月期3Q	14,656,000 株	2018年9月期	13,676,400 株
期末自己株式数	2019年9月期3Q	43,295 株	2018年9月期	43,234 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年9月期3Q	14,208,018 株	2018年9月期3Q	13,447,524 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで2019年8月9日に開示予定となります。また、音声による補足説明についても速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(追加情報)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は「世界にインパクトを与えなければ、気がすまない」という経営理念及び「次のあたりまえを創る。何度でも」というミッションのもと、インターネット、スマートフォン等を通じたさまざまなビジネス領域において、多くのユーザーに支持されるサービスの企画・制作・運営を行っています。

当社グループが展開する主なビジネスとして、恋愛・婚活マッチングサービス『with』等の〈コミュニティ〉、スマホRPG『ぼくとドラゴン』や『でみめん』、イグニスグループ初となるブラウザゲーム『猫とドラゴン』の〈ゲーム〉を展開し、それら2つのジャンルに属さないビジネスを〈その他〉とした3ジャンルを、現時点で収益を生む基盤収益事業と位置付けて展開しています。さらに、新規ジャンルへのチャレンジとして、今後、サービスの普及拡大と急成長が見込まれる分野であるVR（Virtual Reality：仮想現実）やAI（Artificial Intelligence：人工知能）、IoT（Internet of Things：モノのインターネット）等の最先端技術の商業化を目指しており、特にVRとAIを活用したビジネスを積極的投資事業と位置付け、早期収益化に向けて積極的に経営資源を投入しています。

当第3四半期連結累計期間においては、前連結会計年度に引き続き高成長を続けている〈コミュニティ〉のジャンルが連結売上高に大きく貢献いたしました。一方、新規事業の商業化に向けた開発投資や既存事業の強化に向けたプロモーション等の事業投資も引き続き行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,062,729千円（前年同四半期比11.7%増）、営業損失は723,249千円（前年同四半期は951,449千円の営業損失）、経常損失は807,309千円（前年同四半期は979,631千円の経常損失）となり、また、投資有価証券売却益892,563千円を特別利益として計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純損失は358,349千円（前年同四半期は1,083,670千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、当社グループはスマートフォンアプリ事業の単一セグメントであるため、セグメント別の業績は省略しています。

各ジャンルの取り組みと業績は以下のとおりであります。

## 〈コミュニティ〉

当第3四半期連結累計期間は、恋愛・婚活マッチングサービス『with』において、他社類似サービスとの差別化を図るべく、心理学やAIを活用して最適な男女のマッチングを目指し、各種診断イベントの実施や、レコメンド機能である「For You」機能を新たに追加するなど、施策を講じてまいりました。これらの施策はもちろん、国内でオンラインマッチングサービスが急速に浸透してきていることから、『with』についてはプロモーションによる新規流入だけでなく、クチコミによる新規流入も増加傾向にあり、2019年6月末時点におけるユーザー数は200万人を突破するなど、サービスは引き続き順調に成長しています。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は2,130,100千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は1,170,273千円であったことから、前年同四半期比82.0%増となっています。当該サービスについては、引き続きユーザービリティの向上や精度の高いマッチングを実現する機能、診断イベントを継続的に実施していくことで、ユーザー満足度の高い唯一無二の恋愛・婚活マッチングサービスを目指してまいります。

## 〈ゲーム〉（注1）

当第3四半期連結累計期間では、主力タイトルである『ぼくとドラゴン』が配信開始から5年目に突入し、既存ユーザーの満足度向上と収益の安定化を目指すため、季節イベントの強化や、他社人気IPとのコラボレーション第二弾の実施など、各種施策を講じました。

また、2018年12月12日に提供を開始した、女性向け新作スマホRPG『でみめん』においては、ゲーム内の季節イベントの他、公式SNSと連動し、フォロー&リツイートでオリジナルグッズや、出演声優のサイン色紙が当たるプレゼントキャンペーンを実施することで、ユーザーとのエンゲージメントを高めるサービス運用をしてまいりました。2019年4月3日には、イグニスグループ初のブラウザゲーム（注2）である、『猫とドラゴン』の提供を開始するなど、新たな領域への挑戦も行ってまいります。

一方で、スマートフォン向けゲームマーケットの競争は一層激化してきており、前期に引き続きプロモーションを中心とした的確なコストコントロールを行ったものの、既存タイトルと新規タイトルの売上寄与は共に限定的となり、〈ゲーム〉ジャンル全体の売上高は減少しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は1,799,326千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は2,187,880千円であったことから、前年同四半期比17.8%減となっています。

#### <その他>

当ジャンルではグラム株式会社（旧 株式会社U-NOTE）が運営する性格傾向データによる求人マッチングサービスのビジネスや、その他どのジャンルにも属さないプロダクトを含む既存事業で構成されています。

その他にも、「VR」分野におけるバーチャルライブアプリ『INSPIX』を中心とした「バーチャルライブプラットフォーム事業」、VRアイドル『えのぐ』や、芸能プロダクションの運営を行う株式会社VOYZ ENTERTAINMENTによる「エンターテインメント事業」、順天堂大学との共同研究「VRを用いた慢性疼痛の緩和」などの新規事業が含まれております。

「VR」分野では、新時代の音楽イベントである、バーチャルライブとバーチャル握手会を楽しむことのできる、バーチャルライブアプリ『INSPIX』を2019年8月中にリリースできる予定となりました。VRアイドル分野においては、業務提携先である株式会社岩本町芸能社所属のVRアイドル『えのぐ』が、2019年4月にグループ結成1周年を記念した初のARライブを開催した他、「TOKYO IDOL FESTIVAL 2019」の出演や、他社既存ゲームとのコラボレーション、「コミックマーケット96」への出展が決定するなど、精力的に活動しています。また、芸能プロダクションの運営を行う株式会社VOYZ ENTERTAINMENTに所属する『VOYZ BOY』は、定期公演やファンミーティングを行い着実にファン数が増加しています。

VR医療分野においては、順天堂大学との共同研究である「VRを用いた慢性疼痛の緩和」が2019年6月にパイロット提供を開始するなど順調に進捗しています。

「AI」分野では、持分法適用関連会社である株式会社ロビットにおいて、AIを活用したピッキングロボの精度を高めるソフトウェアを開発いたしました。主に、工場の生産ラインで、金属片や食品などの搬送する用途を見込んでおり、工場の自動化を進める自動車部品メーカーなどへの導入を目指しています。

なお、前連結会計年度において、モビリティビジネス・プラットフォームを展開する株式会社Mellowが連結の範囲から除外されたことや、連結子会社のグラム株式会社（旧 株式会社U-NOTE）がメディアサービス『U-NOTE』を事業譲渡したことなどが、当ジャンルの売上高は減少要因となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は133,301千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は278,839千円であったことから、前年同四半期比52.2%減となっています。

- (注) 1. ゲームの配信プラットフォームが多様化してきている事を踏まえ、従来の<ネイティブゲーム>を<ゲーム>に変更しています。
2. ブラウザゲームとは、ダウンロード不要で、ウェブブラウザがあれば遊べるゲームのことです。

#### (2) 財政状態に関する説明

##### (資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は4,121,638千円となり、前連結会計年度末に比べ533,231千円減少いたしました。流動資産は1,787,669千円（前連結会計年度末比113,725千円減）となりました。主な増加要因は、売掛金が36,084千円増加したことによるものであります。主な減少要因は、現金及び預金が60,951千円減少したこと、未収還付法人税等が28,769千円減少したこと、未収消費税等が28,675千円減少したこと、短期貸付金が16,302千円減少したことによるものであります。固定資産は2,333,969千円（前連結会計年度末比419,505千円減）となりました。主な増加要因は、事業規模拡大に伴う本社オフィスの増床等により有形固定資産が73,240千円増加したこと、<コミュニティ>ジャンルの『with』のソフトウェア増加等により無形固定資産が82,636千円増加したこと、投資その他の資産において長期未収入金が236,539千円増加したこと、長期貸付金が53,000千円増加したこと、繰延税金資産が50,162千円増加したことによるものであります。主な減少要因は、投資その他の資産において一部投資有価証券の売却等に伴い、投資有価証券が909,528千円減少したことによるものであります。

##### (負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は1,586,780千円となり、前連結会計年度末に比べ795,601千円減少いたしました。流動負債は1,233,076千円（前連結会計年度末比592,355千円減）となりました。主な増加要因は、未払法人税等が200,355千円増加したこと、前受収益が45,539千円増加したことによるものであります。主な減少要因は、借入金の返済により短期借入金が300,000千円減少したこと、未払金が291,836千円減少したこと、一年内返済予定長期借入金が141,677千円減少したこと、買掛金が76,316千円減少したことによるものであります。固定負債は353,703千円（前連結会計年度末比203,245千円減）となりました。主な減少要因は、借入金の返済により長期借入金が156,357千円減少したことによるものであります。

##### (純資産)

当第3四半期連結会計年度末の純資産は2,534,858千円となり、前連結会計年度末に比べ262,369千円増加いたしました。主な増加要因は、第三者割当増資により資本金が610,545千円、資本準備金が609,871千円増加したこと、主な減少要因は、利益剰余金が358,349千円、投資有価証券の一部売却等に伴い、その他有価証券評価差額金595,757千円減少したことによるものであります。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2018年9月期において営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しており、依然として継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

それに対し、当社は当該状況を解消すべく、2018年12月26日に第三者割当による新株式発行による払込が完了し、また、2019年3月8日に行使価額修正条項付第18回新株予約権の全行使による払込も完了しております。さらに、2019年3月から5月にかけて投資有価証券の一部売却を行い、本決算短信公表日時点で財務の安定化は図れております。その上で、今後も、①基盤収益事業の強化による売上維持・拡大、②積極的投資事業については選択と集中による事業の選別と早期収益化の実現、③資金調達や資金繰りの安定化、④経費の削減に努めてまいります。これらの改善策を状況に応じて適切に推進していくことから、継続企業の前提に重要な不確実性は認められないと判断しております。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期の連結業績予想につきましては、2018年11月12日に公表いたしました「2018年9月期決算短信」の内容に変更はございませんが、2019年5月29日公表の「投資有価証券売却益（特別利益）の計上に関するお知らせ」のとおり、第3四半期累計期間において投資有価証券売却益892,563千円を特別利益として計上しています。なお、現在の業績動向を鑑みてプロジェクトの選択と集中を図っており、通期連結業績予想への影響につきましては、その他の要因を含めて精査中であり、見通しが固まり修正が必要な場合は速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	480,340	419,389
売掛金	536,198	572,283
営業貸付金	1,312,487	1,298,790
貯蔵品	5,194	5,194
その他	411,682	342,630
貸倒引当金	△844,507	△850,618
流動資産合計	1,901,394	1,787,669
固定資産		
有形固定資産	296,229	369,470
無形固定資産		
ソフトウェア	414,306	496,942
無形固定資産合計	414,306	496,942
投資その他の資産		
投資有価証券	1,113,759	204,230
長期未収入金	665,876	902,416
敷金	462,524	437,168
その他	516,655	639,617
貸倒引当金	△715,876	△715,876
投資その他の資産合計	2,042,939	1,467,556
固定資産合計	2,753,475	2,333,969
資産合計	4,654,869	4,121,638
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	126,375	50,059
短期借入金	400,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	372,411	230,734
未払金	541,824	249,987
未払法人税等	103,458	303,813
その他	281,363	298,482
流動負債合計	1,825,432	1,233,076
固定負債		
長期借入金	304,161	147,804
資産除去債務	177,910	203,170
その他	74,878	2,729
固定負債合計	556,949	353,703
負債合計	2,382,381	1,586,780
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,621,629	2,232,174
資本剰余金	1,528,307	2,138,179
利益剰余金	△1,440,022	△1,798,372
自己株式	△52,164	△52,255
株主資本合計	1,657,749	2,519,726
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	593,924	△1,833
為替換算調整勘定	4,064	857
その他の包括利益累計額合計	597,989	△975
新株予約権	16,749	15,063
非支配株主持分	—	1,043
純資産合計	2,272,488	2,534,858
負債純資産合計	4,654,869	4,121,638

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
売上高	3,636,993	4,062,729
売上原価	966,722	943,792
売上総利益	2,670,271	3,118,936
販売費及び一般管理費	3,621,720	3,842,186
営業損失(△)	△951,449	△723,249
営業外収益		
受取利息	1,588	1,490
為替差益	—	2,204
還付加算金	3,867	845
雑収入	4,874	2,485
営業外収益合計	10,330	7,025
営業外費用		
支払利息	4,942	4,091
持分法による投資損失	14,953	45,940
株式交付費	18,053	12,000
支払手数料	258	28,864
雑損失	304	188
営業外費用合計	38,512	91,086
経常損失(△)	△979,631	△807,309
特別利益		
関係会社株式売却益	53,879	—
投資有価証券売却益	—	892,563
新株予約権戻入益	—	1,686
特別利益合計	53,879	894,249
特別損失		
のれん償却額	34,185	—
固定資産除却損	—	348
特別損失合計	34,185	348
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△959,937	86,591
法人税、住民税及び事業税	27,297	305,335
法人税等調整額	121,149	143,562
法人税等合計	148,446	448,897
四半期純損失(△)	△1,108,384	△362,306
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△24,713	△3,956
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,083,670	△358,349



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△1,108,384	△362,306
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,421	△3,206
その他有価証券評価差額金	—	△595,757
その他の包括利益合計	△1,421	△598,964
四半期包括利益	△1,109,805	△961,270
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,085,092	△957,314
非支配株主に係る四半期包括利益	△24,713	△3,956

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年12月26日付で、当社の代表取締役が共同で保有する資産管理会社2社、当社の取締役1名を割当先とする、第三者割当増資の払込みを受けました。また、2019年3月8日付で、当社の代表取締役が共同で保有する資産管理会社1社から第18回新株予約権の行使による払込みを受けました。その結果、他の新株予約権の行使による増加も合わせて、資本金が610,545千円、資本剰余金が609,871千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,232,174千円、資本剰余金が2,138,179千円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、2018年11月20日付で新たに設立した株式会社ミラクルプロについて、また、当第3四半期連結会計期間より、2019年5月30日付で新たに設立した株式会社VOYZ ENTERTAINMENTについて、連結の範囲に含めております。一方、第2四半期連結会計期間において、株式会社イグニッションは清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、スマートフォンアプリ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。